

赤平市では、子どもに見通しを持って考えさせ、わかったことを振り返えらせる授業と家庭における学習の習慣を徹底させることを柱に子どもの学力向上を図ってまいりました。小学校と中学校が連携して、子どもに基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業実践を進め、さらに教育行政と保護者・地域が一体となって、赤平市の児童・生徒に心理的安全性を確保した中で学習させることが大切です。

赤平市では、次の2点を重点指導しております。

○早寝・早起き・朝ごはん、安定した規則正しい生活を送る。

○毎日、勉強する。学年×10+10分

例：小1→20分、小6→70分、中3（9年生）→100分

ゲーム等の時間を
考えよう！

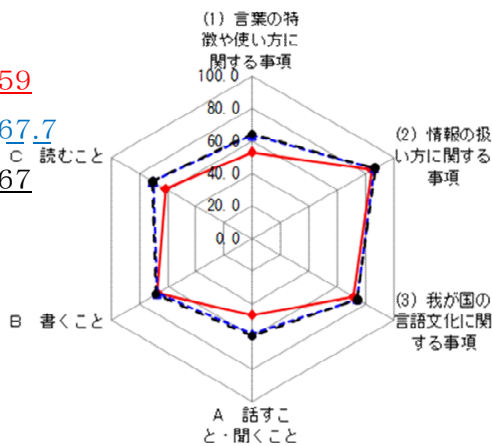
1 全国学力・学習状況調査の結果について

4月に実施した全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学の結果ですが、全国・全道と赤平市の正答率を問題内容別にレーダーチャートで掲載させていただきます。また、児童・生徒質問紙調査から生活と学習意欲につながる質問を取り上げて、折れ線グラフで5年間を比較いたしました。（ゲーム時間の質問は、国・道との比較）

【小学校6年生 正答率(%)】

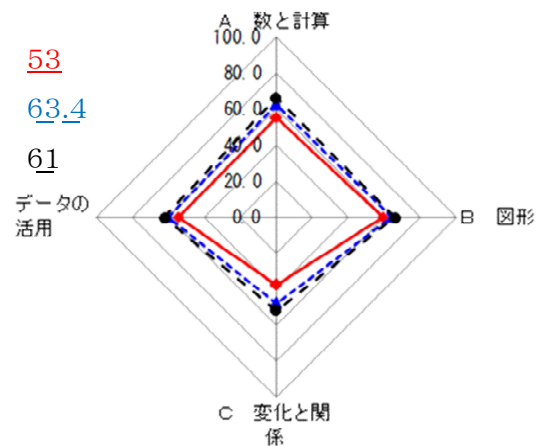
国語全体

赤平 59
全国 67.7
北海道 67



算数全体

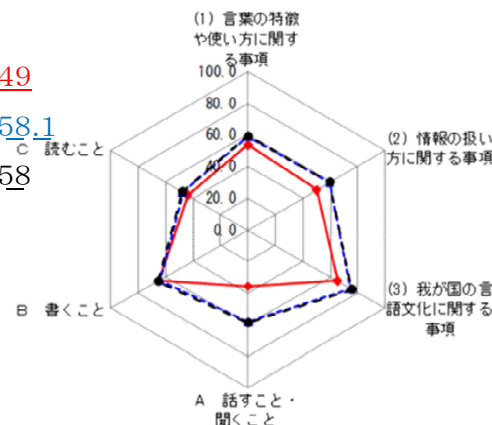
赤平 53
全国 63.4
北海道 61



【中学校3年生 正答率(%)】

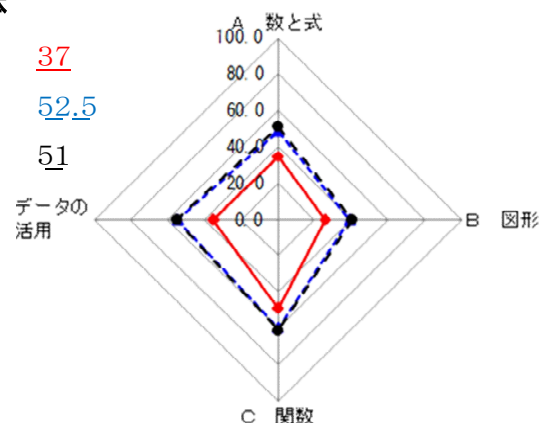
国語全体

赤平 49
全国 58.1
北海道 58

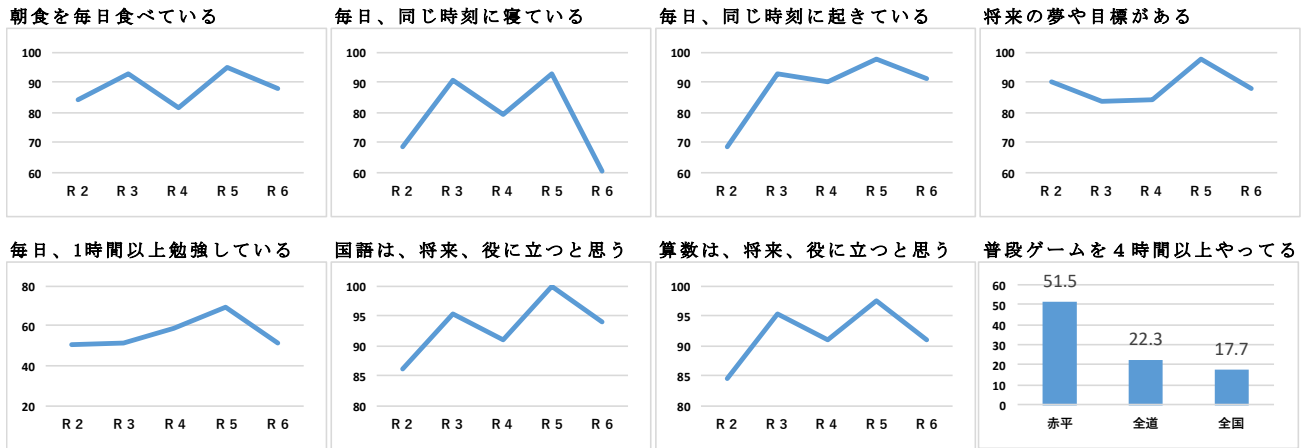


数学全体

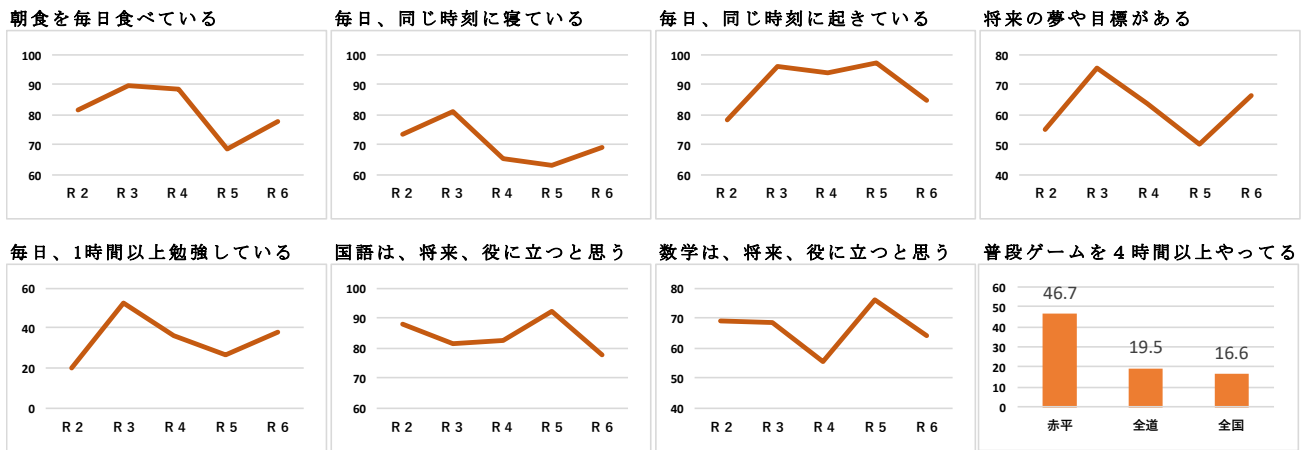
赤平 37
全国 52.5
北海道 51



【小学校6年生 質問紙調査】生活習慣・学習意欲にかかわる質問



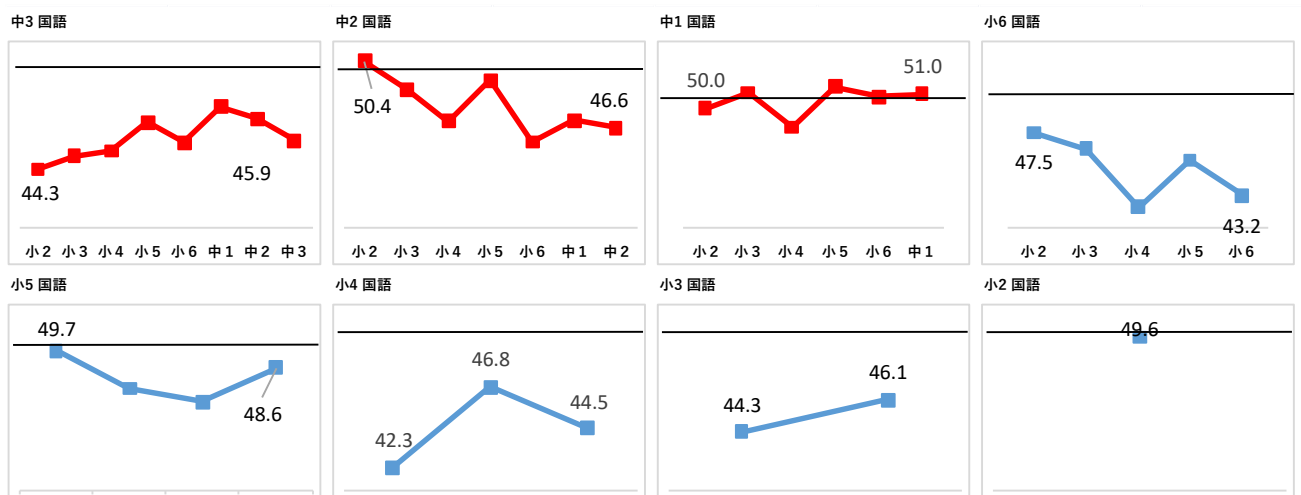
【中学校3年生 質問紙調査】生活習慣・学習意欲にかかわる質問



2 標準学力検査について

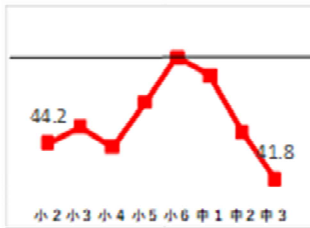
4月に実施した標準学力検査(NRT)の結果を教科別、学年別にお知らせします。この検査は、赤平市の教育施策として実施しています。グラフは赤平市の小・中学生の結果ですが、実線を「全国標準値50」(小6英語は、60)として表しております。今年度の各学年における、各教科の学力変遷がわかります。

【国語】

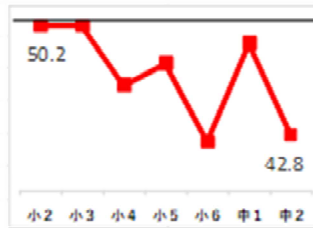


【算数・数学】

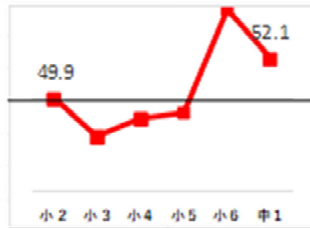
中3 数学



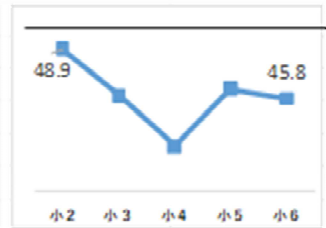
中2 数学



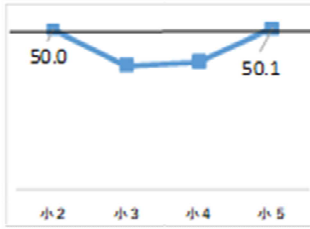
中1 数学



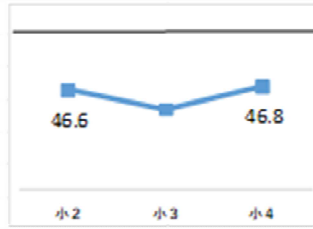
小6 算数



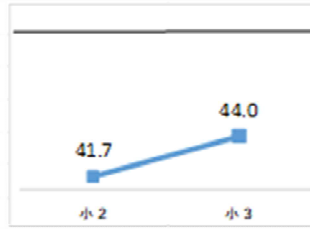
小5 算数



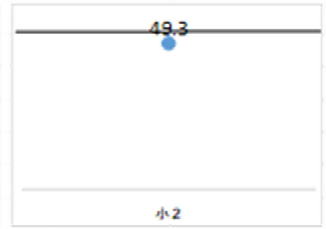
小4 算数



小3 算数

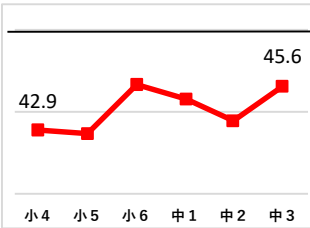


小2 算数

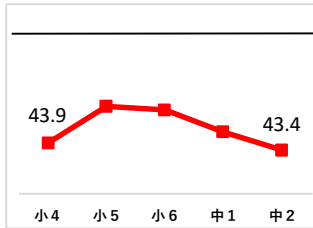


【社会】

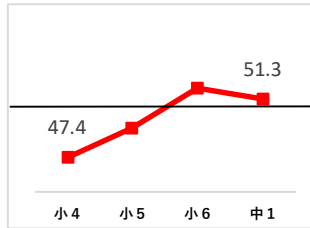
中3 社会



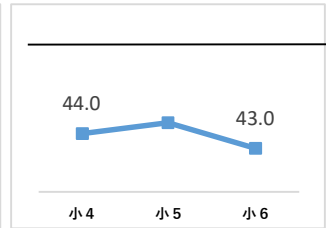
中2 社会



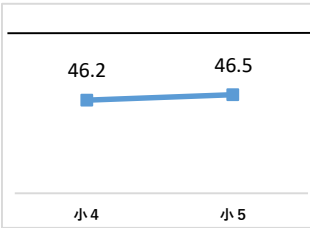
中1 社会



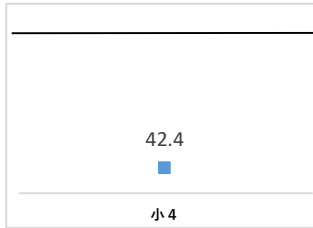
小6 社会



小5 社会



小4 社会

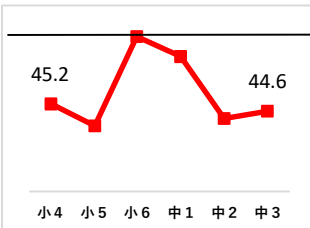


「小3 社会」教科なし

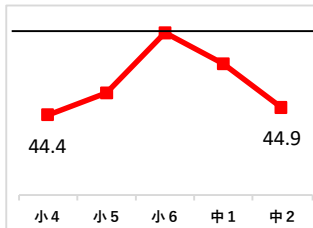
「小2 社会」教科なし

【理科】

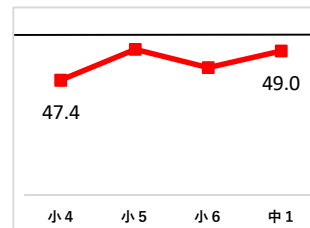
中3 理科



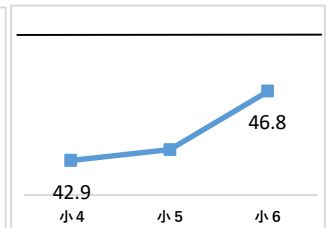
中2 理科



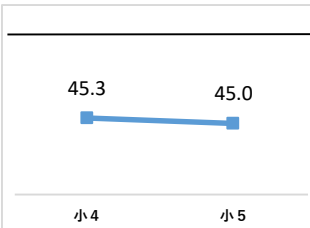
中1 理科



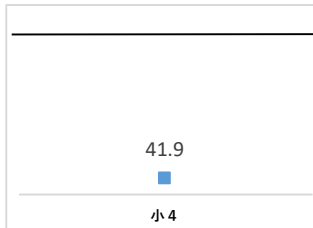
小6 理科



小5 理科



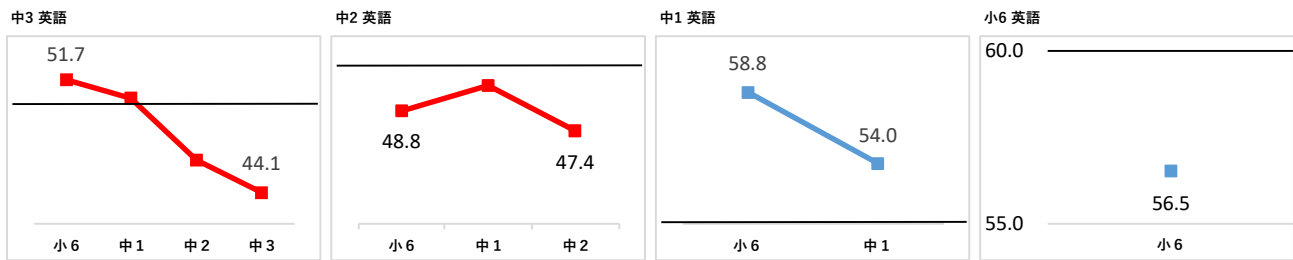
小4 理科



「小3 理科」教科なし

「小2 理科」教科なし

【英語】



3 小・中学校における具体的な学力向上の取り組み

【授業改善の工夫について】

- 各学力テストの結果や日ごろの評価から、子どもたち一人一人のレベルまで分析を行い、授業改善と個に応じた指導方法を工夫します。
- 先生は、授業を充実させるための重点ポイントを設定しながら授業を参観し合い、意見交流を通して学び合う場を積み重ね、授業の質の向上に努めます。
- 子どもが、「考え」「発表し」「学び合い」「振り返る」場面を明確にして、毎時間、分かる喜びを保障する授業を展開します。
- 小・中学校で統一した授業スタイルを掲げ、すべての学年・学級において子どもたちに見通しを持った授業を提供します。
- 授業中の約束や学級の決まり事を統一し、これから小・中学校が共通することにより、学年や学級が変わってもこれまでと同様に安心できる学びやすい環境づくりに努めます。

【家庭学習の改善・充実に向けて】

- 「家庭学習チェックシート」を活用して、家庭学習時間や学習内容の実態把握を日常的に行い、うまく取り組めない子どもへの支援を行います。
- 学校として意図的に設定した宿題に取り組ませながら、家庭学習に自ら取り組む意欲を高めるように支援します。
- 家庭学習を提出した子どもたちには、丸付け、スタンプ、コメント等により、学習意欲が向上するよう、働きかけを工夫します。
- 家庭と連携して、家庭学習の習慣の定着と時間の確保が進むよう、学校だよりや学級通信、懇談会等でお伝えします。
- 朝の学習時間を設定し、家庭学習と関連づけて学習内容が定着する指導を行います。

4 教育委員会としての学力向上に係る支援策

- 北海道教育委員会に義務教育指導班の指導主事派遣を要請し、よりよい授業づくりができるよう、指導力向上に向けた具体的な指導を行います。
- 個々のタブレット端末にAI学習ドリルを導入し、子どもの学習状況や進捗状況に合った学習支援を行います。中学校では、「英語検定」の助成を実施し、学習意欲と英語力の向上を支援します。また、「公設塾」事業を通して、授業以外の学習機会の設定を進めます。